

学校・施設アーカイブズ入門

学校・施設アーカイブズ研究会 編著

貴重な史資料を未来へ伝え
有効活用するための第一歩！

第一の手引きに！

学校・施設 図書館・博物館・美術館 資料館・資料室 ...

学校史・施設史・事業史・各種年史・資料集・記録集...

いま製作中—予定中—中断—設置・建築計画中、これから考えたい...

そんな時

アーカイブズ

記録史資料を収集・保存・活用
するための機能・施設

この理念理解が有効です！

「アーカイブズとは何か」から実践事例の紹介
そしてアーカイブ構築のための具体的課題など
分かりやすく解説。専門知識は不要です！

本書をまず開いてください！



紹介のアーカイブズより

*掲載写真すべてカラー



学術資料出版

大空社出版

資料に命を
作品に心を
形にして伝える。

www.ozorasha.co.jp

学校・施設アーカイブズ入門

学校・施設アーカイブズ研究会 編著

第1章 学校・施設アーカイブズの意義と運営

1. アーカイブズとは何か
(定義、意義と機能、法的根拠と現状、研究)
2. 図書館や博物館との違い(扱う資料、専門職員)
3. 学校・施設アーカイブズの必要性と活用
4. 学校・施設アーカイブズづくりの手順

第2章 学校・施設アーカイブズの事例

1. 特別支援学校の事例
 - [1] 京都府立盲学校資料室
 - [2] 東京都立大塚ろう学校 (公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会聴覚障害者教育関係資料収集事業)
 - [3] 旭出学園 三木安正記念文庫
 - [4] 筑波大学人間系障害科学域図書室内
小杉(長平)・杉田(裕) 文庫
2. 福祉施設の事例
 - [1] 滝乃川学園石井記念文庫
 - [2] 三田谷治療教育院三田谷文庫
 - [3] 社会福祉法人 大木会 不問庵・一碧文庫
 - [4] 大島藤倉学園 本館
 - [5] 国立武蔵野学院図書・資料室

第3章 学校・施設アーカイブズの課題と展望

1. 機能の確立と担当分掌の明確化
2. スペースの確保と保存対策
3. 記録史資料の収集・整理・保存
4. 記録史資料の活用 5. 意識と理解 6. 相互の連携

資料 記録史資料・アーカイブズをめぐる (日本特殊教育学会) 自主シンポジウム (2005～2013年)

●執筆者(執筆順)▷執筆担当) *所属は本書刊行時

津曲裕次	長崎純心大学大学院教授(知的障害児教育福祉学・施設史)▷はじめに、2章1-[3]、3章
野口武悟	専修大学教授(図書館情報学、特別支援教育学)▷1章、2章1-[3]、3章、資料
岸 博実	京都府立盲学校非常勤講師・日本盲教育史研究会事務局長(視覚障害教育)▷2章1-[1]
坂井美恵子	大阪教育大学非常勤講師、元大阪府立生野聴覚支援学校長(聴覚障害教育)▷2章1-[2]
米田宏樹	筑波大学准教授(障害科学、特別支援教育学)▷2章1-[4]、資料
米川 覚	社会福祉法人滝乃川学園石井亮一・筆子記念館館長(知的障害児者福祉)▷2章2-[1]
中村 修	滝乃川学園石井亮一・筆子記念館学芸員(日本近現代史・記録史料学)▷2章2-[1]
駒松仁子	元国立看護大学校教授、元国立病院医療センター小児病棟看護婦長(小児看護学)▷2章2-[2]
本保恭子	ノートルダム清心女子大学教授(治療教育学、小児の健全育成)▷2章2-[2]
蒲生俊宏	日本社会事業大学准教授、社会福祉法人大木会評議員(日本知的障害関係施設史)▷2章2-[3]
富永健太郎	日本社会事業大学社会福祉学部実習教育研究・研修センター助教(知的障害者施設史)▷2章2-[3]
高野聡子	聖徳大学准教授(特別支援教育)▷2章2-[4]
阿久津美紀	児童自立支援施設国立武蔵野学院図書・資料室(アーカイブズ学)▷2章2-[5]

*掲載写真すべてカラー

始めよう、では、何から始めるか——

本書では、私たちが進めてきた特別支援教育・福祉領域の学校・施設を事例として、記録史資料の収集、整理、保存の現状、アーカイブズを整備し活用するための課題を扱っています。そして、「知＝図書・資料」の構成と総体の理解を目指しながら、実践のための共通フォーマット作成に取り組み始めました。

人口減少社会で、各地の学校・施設では、統廃合による資料の分散、消滅が危惧されています。いま必要なのは、特別支援教育・福祉領域に限らず、一般の学校教育や各種施設でも、所蔵史資料の現状と実態を把握することです。さらに、その史資料を保存し、有効活用するために、まずどのような手だてで取り始め、次に何を講じればよいかを検討し、実践に移ることで、本書が少しでも、これらの作業の手引きとして役立つことを希望しています。

まえがきより(研究会代表 津曲裕次)

「特色」

- ①「アーカイブズ」の基本を理解し、現状と構築の実際を専門知識がなくても概観できる待望の入門書。
- ② 史資料の記録・保存の重要性を認識し、独自に構築に努めてきた当事者による事例で、方法や課題を具体的に学べる実践の書。
- ③ 外観・スペース・書架・保存庫・機材・収集資料・利用規約・公開情報等が豊富な写真(全カラー)とともに記述されていて、理解しやすい。

8 | 第1章 学校・施設アーカイブズの意義と運営

化的情報資源」として捉え、相互に連携を図る MLA 連携 (M＝博物館、L＝図書館、A＝アーカイブズ) が国際的に進みつつある。今後は、違いを強調するよりも、共通性を重視し相互連携を一層強化していくことになるだろう。

筆者が訪問した施設のなかで印象的だったのは、栃木県芳賀町にある「芳賀町総合情報館(知恵の環館)」である。ここは、図書館、博物館、アーカイブズの三者を一体化した施設であり、2008(平成20)年に開館した。日本における MLA 連携型施設の先駆けといえ、今後もこうした施設が増えていくのではないかとと思われる。

■栃木県芳賀町総合情報館



図書館
開架スペース



博物館展示



アーカイブズ書庫

(筆者撮影)

学校・施設アーカイブズ入門

学校・施設アーカイブズ研究会 編著

学校・施設アーカイブズ入門

学校・施設アーカイブズ研究会 編著

978-4-283-01318-6

B5判・120頁・並製

定価 2,750 円
(本体 2,500 円＋税 10%)

eigyo@ozorasha.co.jp
TEL:03-5963-4451 / FAX:03-5963-4461
東京都北区中十条 4-3-2 (〒114-0032)

学術資料出版

大空社出版

資料に命のちを
作品に心こころを
形にして伝える。

www.ozorasha.co.jp

(大空社 2015 年 9 月刊)